

平成 27 年度 音楽教育にかかわる現状と課題

部長 角 谷 紀 栄 子

1 音楽教育の動向

【上越地区】上越市音楽部、妙高市音楽部、糸魚川市教育研究会音楽部では、10 月 15 日の第 57 回関東音楽教育研究会新潟大会小学校部会の授業公開と分科会運営に積極的に協力、参加することにより、資質の向上に努めた。調査官の講評から今後の方向性についての多くの学びがあった。大会主題は「味わおう音楽を 伝え合おう思いを」である。また、各地域で音楽会を実施した。柏崎市刈羽郡音楽研究部では、合唱指導講習会と小・中合同音楽会の 2 つの事業を中心として活動の充実が図られ、日々の授業や児童の活動に生きる有意義な研修ができた。

【中越地区】長岡市三島郡音楽部では、親善音楽会に市郡内の全 62 校が参加して 4 日間 6 ステージに渡って演奏を披露した。「思いをもって表現する子ども」を研修テーマに行った授業研究会では、一人一人の思いを大切に音楽をつくり上げ表現していく子どもの姿が見られた。三条市音楽部では、長沢小学校高学年 37 名をモデルとして合唱指導研修会を開催した。合唱指導のポイントや声掛けの言葉、表現の仕方など分かりやすく指導してもらった。十日町市中魚沼郡教育振興会音楽部では、指揮法の実技研修会（小中合同）、音楽交歓会、授業研究（小中合同）等を行った。小中合同を行うことにより、校種の異なる学校の様子を知る貴重な研修の場になっている。見附市音楽部では、夏期研修会と音楽祭の 2 つの事業を中心として行った。音楽祭では、オープニングで見附市出身の矢沢幸作詞の「一本のすじ雲」を合唱した。燕市西蒲原郡音楽部では「教科書改訂のポイントについての研修」と授業研究会を行い学習の質の向上を目指した。魚沼市音楽部では、合唱指導講習会で実際の子どもの指導を参観し声が変わっていく様子を見て研修が深まった。また、小千谷市立片貝小学校で開催された第 44 回中越音楽研究会研究大会へ参加することにより、幅広い研修ができた。魚沼市音楽部では、昨年度に引き続き箏と三味線の実技研修を行ったが、貴重な研修であったという意見が多かった。

【新潟市・下越地区】新潟市音楽部では「聴いて 感じて 考えて」を研究主題に、3 つの授業研究と一人一授業研究が進められた。全体研修や一人一研究では、昨年度に引き続き「音楽づくり」についての研修を行った。新発田・北蒲音楽部では、鑑賞の指導に焦点を当てて授業研究と講習会を実践した。村上市・岩船郡音楽部では、筑波大学附属小学校中島寿先生を講師に「鑑賞指導」の研修会を行い、授業研究と合わせて「鑑賞指導」についての研修を深める一年になった。五泉市音楽部では、授業研究、器楽実技講習、合唱指導・実技講習の 3 つを研修の柱として子どもが楽しく音楽活動に取り組む手立ての研修に励んだ。阿賀野市音楽部では、1 学年の授業研究を行った。「リトミックを取り入れた音楽指導」の研修と共に、楽しい授業を実践するためには、教師自身が楽しむことが大切であると改めて感じる研修であった。佐渡市音楽部では、授業研究会、夏期実技研修会、全小学校参加による音楽発表会の 3 つの柱を中心として、順調に事業や研修を進めた。夏期講習会では、能が盛んな佐渡の特色を生かして金井能楽堂で謡の研修を行い（3 年目）、より一層能についての研修を深めることができた。胎内市音楽部では、小中連携の形として二市市北蒲中教音楽部授業研究に参加して小中学校の両方のニーズに対応した研修内容の充実のあり方を模索した。

2 音楽教育の課題

上越市を会場として第 57 回関東音楽教育研究会新潟大会が開催され、県内外の大勢の参加者と共に有意義な研修を行うことができた年であった。参加者からは、授業研究や運営の質の高さに賞賛の声が寄せられた。成果を生かして更なる新潟県の音楽教育の飛躍につなげたいものである。